

ASAPカンボジア通信

Asia School Attendance Partnership

NPO法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会



トロピアンプレイ中学・高等学校に寄贈した大運動場

2018.3

■ 第29回視察訪問のご報告

長谷川 理事長…P1

■ トロピアンプレイ中学高校に大運動場…P2

■ 各支援校の様子…P3～4

■ その他の活動報告…P5～6

■ 高校の先生と学生にインタビュー…P7

■ 今後予定しているプロジェクト…P8

■ Mother to Mother 活動報告…P9～10

■ コールタメイ村物語誕生?…P11～14

Vol.21

第29回視察訪問のご報告

理事長 長谷川 安年

去る1月19日から24日、第29回の視察訪問を実施致しました。今回は、私と私の健康を心配する妻、副理事長の大沼、理事細谷の4名で実施致しました。

私がカンボジアの教育支援活動を開始してから早くも13年。NPOとしては11年を経過しました。その間、小学校校舎7校、中学校1校そして昨年高等学校を設立し、子ども達の明るい将来への道筋をつける事が出来ました。多くの暖かい心の方々が支えて下さった結果です。

支援開始から11年たったカンボジアの学校教育ですが、内部体制はまだ不完全であり、音楽、絵画、体育などの授業は全く行われていません。幸いにもトロピアンプレイ中学と高校には広大な村有地があり、造成すれば立派なグラウンドとして活用できることは明確でした。しかしながら国からの計画は全くありません。郡長、村長や教育委員会の要望もあり、私はこの4月で90才傘寿を迎えることが出来る感謝の気持ちとして、グラウンドを寄贈する事に決めました。

今回の私たちの訪問の大きな目的はこのグラウンド（運動場）の寄贈と運営体制確認の為です。訪問時には既にその形が見えてきており、ブルトーザーの横で大勢の若者がサッカーに興じておりました。沢山の子供達、村民の皆様が喜んでる姿を見て大変幸せな気持ちです。

また、過去何回かの視察訪問でASAPはコールタメイ小学校から車で20分ほどにあるホントーン小学校の視察を重ねて参りました。予算の目途がどうにか付きましたので次期プロジェクトとして、ホントーン小学校校舎寄贈を決定致しました。次回の訪問（8月後半）には落成式が迎えられると思います。



高校に入学した生徒達

支援中学・高校に大運動場が誕生

ポルポト政権で学校教育が全て廃止された影響で、現在でもカンボジアの学校では音楽、体育、美術（図画工作等）の時間がありません。運動できる広場さえありません。

実は昨年8月に寄贈したトロピアンプレイ高校学校は、広大な土地を所有していました。「ここに大きなグラウンドを作ったら周囲の学校や村人が利用できる！」と考えたものの、現状は木が生い茂った藪の状態。大造成が必要でしたが、予算と優先順位がありすぐに実現できるわけではありませんでした。その時、今年の4月で90歳を迎える理事長が「この年まで元気に來れたその記念にグラウンドを寄贈する」と、造成費用全額の100万円をASAPに寄付し、これにより昨年12月にグラウンドの造成に着手しました。（90歳の記念寄贈という事で、恐縮ながら「長谷川グラウンド」と命名させていただきます）

今回の訪問時にはまだ地面がぼこぼこしている状態で、どこまで綺麗な状態に持っていけるのかは未知ではありますが、すでにサッカーの試合が行われ、沢山の村人が集まっていました。

これからが正念場。絶対に避けたいこと

今カンボジアでは「サッカー」が大人気です。この寄贈したグラウンドで一番心配しているのはここが単なる「サッカーグラウンド」になってしまう事です。**ASAPは学校の生徒達にサッカーだけでなく、陸上競技やほかのボール競技を楽しんでもらいたい為にこのグラウンドを寄贈しました。**しかし、先生自身が「グラウンドでの運動」を経験したことがない中でどうやってその活用法を理解して実践に移してもらえるのでしょうか。それにはまず先生達の意識改革が必須です。そこで一大決心をしました。

『校長先生を日本に招き、日本の学校の校庭の使い方を実際に見てもらおう』プロジェクト発足です。（詳細は本誌P8に）



造成中でももう生徒達が！



最近開かれたサッカーの試合で大勢集まった村の人達。こんなに大勢の村人たちが集まれる広場はほとんどないカンボジアです。

各支援校の様子

各支援校を訪問した時の様子です。「〇〇がほしい」といった要望がどの学校からも次々に届きます。要望を聞いていたらきりがないという事を私達はこの10年間で学びましたので、基本的には支給している児童支援金を利用して、自分たちで改善に取り組んでもらうというスタイルを取っています。

トロク小学校

- ・生徒一人当たり1ドルの児童教育支援金を支給（342ドル）
- ・愛知大学の研究室が子ども達の健康診断を実施した。
- ・今年はお米が不作で借金をする人が増えているらしい。
- ・オーストラリアの団体からノート（300冊）と靴（125足）の支援を受けた。
（この様な単発支援は度々あります）
- ・昭島ロータリークラブからのピアノを使って、現在10曲の演奏が出来るようになった。

タットム小学校

- ・生徒一人当たり1ドルの児童教育支援金を支給（262ドル）
- ・先生が1人増えて12名に。
- ・国の予算とASAPの教育支援金で学校の周囲に柵を作った。
- ・本柵が欲しいという要望があったが、過去職員室の床をタイルにする費用も教育支援金を利用したわけだから、本柵も教育支援金で出来るはずと伝えた。

トロピアンプレイ中学校・高等学校

- ・中学を高校には、校舎寄贈の際に運営費用は大丈夫という事を確認したので、支援が先走ることのない様に、状態を見極める為現時点では決まった教育支援金は支給していない。
- ・現在中学校在籍数は181名。高校入学者は54名。
以前は高校が遠かった為、「どうせ高校にいられないのなら…」と中学を中退する生徒がいたが、そういった生徒がいなくなり、また、入学者数も増えたという報告があった。
※カンボジア通信 Vol.20 では「入学者数120名」書きましたが、それは3学年が揃った時の人数という事でした。
- ・理科や化学の教材、家庭科で使うミシン、パソコン、図書室の資料や本などが欲しいという要望があった。現時点においてはASAPはそこまではできないことを伝えた。
- ・先生と生徒から、遠くの日本からどうしてカンボジアの支援をここまでしてくれるのかという質問があった。資源の乏しい日本が戦後ここまで成長できたのは、諸外国の支援を受けながら教育に力を入れた為に今日に至ったと伝えた。
※先生や生徒へのインタビューをP7に載せましたのでご覧ください。

ワットルン小学校

- ・学校支援金として 100 ドルを支給。
※校舎寄贈の際に運営費用は大丈夫という事を確認した為生徒数分の支援金は支給していない。
- ・ASAPからのアドバイス通り放課後に掃除をするようにしたら教室が衛生的になった。
- ・ASAPからの指摘を受けてドアにストッパーとしてレンガを置き、壁が壊れないようにした。
- ・古い校舎を壊した木材で給食用の建物を建て ASAP からの教育支援金でトタン屋根を付けることが出来た。
- ・長く休んでいる生徒の家を家庭訪問して改善の努力をした結果、少し改善された。
- ・地球儀、定規などの文房具が欲しいという要望があったが、そういうものにこそ学校支援金支援金を当ててほしいと伝えた。



ミーティングの様子



給食を作る台所

キロタチュム小学校

- ・生徒一人当たり 1 ドルの児童教育支援金を支給 (154 ドル)
- ・水問題など環境的に厳しい状況の為校長先生へ教育支援手当 (100 ドル) 支給。
- ・住民と先生達でお金を出し合っそろえた「扇風機」の電気代金は月 3 ドル位。
- ・貯め池は無駄になっているが、新たに水タンクを寄付してもらえた。(これは 3 つ目のタンクになります。このように寄付してもらえるために、既存の物を大事にしないのかもしれない…)
- ・トイレの修理にASAPからの支援金を使った。(トイレは綺麗に修理されていた)
- ・体育の授業を始めたが、専門の先生がいなあまり内容は充実していない。

コールタメイ小学校

- ・新しい先生が 1 人増えた。
- ・村で英語教育を行っているオーストラリアの団体が、学校の柵を寄付してくれた。
- ・昭島ロータリークラブから寄贈されたソーラパネルは現在も大活躍している。



卒業アルバムを渡した生徒が先生になって…！

ASAPが卒業生にプレゼントしている「卒業アルバム」を受け取ったトロク小学校の卒業生が、今年タットム小学校の新任教師として配属になりました。

卒業アルバムは今でも大事に持っていて、「**中学や高校ではもらっていないので、同級生の顔が今でもわかりとても嬉しいです。だから卒業アルバムの配布は子どもにとって、とても良いことだと思います**」と語ってくれました。

アルバム配布は2008年、故池田副理事長の企画によって始まりました。開始当時、カンボジアでは小学校の先生が大幅に不足しておりました。「いつかこの子たちが先生になって戻ってきたら本当に嬉しいね！」と「夢」を話していましたが、それがとうとう現実となったのです！ASAPの活動の年月の長さを実感します。

故池田副理事長もこの事を知って空の上で喜んで下さっていることでしょう。



2010年のアルバムから

8年たって

将来なりたいものは
「仕立て屋さん」でした



こんな先生に！

現地滞在ボランティアのご報告

トロピアンプレイ中学校を寄贈して下さった(株)ラッシュジャパンの社員 乃一真弓さんが、昨年9月~11月シェムリアップに滞在し、ボランティア活動に取り組んで下さいました。滞在中は、シェムリアップから小一時間の道のりをバイクで通い、村に宿泊しながら、市内で始まったばかりのMother to Mother 製品販売のサポート、音楽指導、日本語指導、高校入学式参列等に当たって下さいました。どれも滞在の短い支援ツアーでは目的達成のできないことばかりでした。

乃一さんが帰国後に大量のピアノカを頂くことになったのですが、これも「ピアノカを有効に活用してもらえる」というお墨付きがあつてのことでした。

この様に非常に有意義な支援活動に取り組んでいただき、無事ご帰国されました。

ASAPでは、このような現地ボランティアを随時募集しています！

沢山のピアノが！

ASAPの今までの継続音楽活動を評価頂き『JHP 学校を作る会』様よりピアノをトロク、タットムの生徒数分譲っていただくことができました。2年前ピアノを50台寄附していただき下地作りにご尽力くださった昭島ロータリー様、現地で楽譜の指導に当たって下さった、渡邊新太さん、乃一まゆみさん、JHPをご紹介下さったシェムリアップの「小さな美術学校」の笠原知子先生、ピアノをプノンペンから学校まで運んで下さったKHJシンホン様、皆さんの力が集まってここまで来る事ができました。「初めての音楽授業の写真」も届きました。



車に一杯積んで運んでくれました



←タットム小の4年生

→トロク小の先生達



新しい支援の形『フレンドファンディング』

シロアリ被害にあったワットルン小学校校舎建て直しプロジェクトのクラウドファンディングに成功してから2年。今度はボランティアスタッフがフレンドファンディング（友達をちょっと応援する取組）「polca」という仕組みで、「ASAPの古くなったパソコン買い替え費用を」と呼びかけ密かに寄付金を集めてきてくれました！ 計6名の方から合計1万円です。

インターネットの世界では、私達が全く存じ上げない方々がASAPのファンになって下さり、その方がまたファンを増やしてくれています。怖いイメージがまだどこに残るインターネットですが、温かさを感じたととても嬉しい出来事でした。

◇支援者のお名前は以下の通りです。御支援ありがとうございました

tsunet111様、兼濱開人様、竹下みどり様、やじけん様、山崎啓介様、他1名様

※山崎様はASAPのIT部門をサポートして下さっているボランティアスタッフで今回の実施者です。

高校の先生と学生にインタビュー

高校全生徒に聞きました

「ポルポトのしたことを両親から聞いたことがある生徒」 ⇒ 4人

「両親のどちらかでもいいので小学校教育を受けた家庭は」 ⇒ 1人

この様な数字を見ると、カンボジアで高等教育を受けた国民の育成の重大さを肌で感じます。



校長先生にインタビュー：高校に期待していること

待望の高校ができて嬉しい。生徒が一番遠い生徒で 9 キロ先から 45 分かけてくる。

今先生は村外の遠方から来ている為、高校の生徒が将来先生になって村に戻ってきてくれることを期待している。教員養成学校卒業後は 3 年間強制的に政府が赴任先を決めるので、すぐには実現しないかもしれないが、村のことをよく知っている村出身の先生が教えてくれるのが理想。

高校生にインタビュー

- ①名前と兄弟の数 ②得意な科目 ③将来の夢 ④高校までの距離
⑤家庭で学校に通っている兄弟は ⑥家族はどう思っているか

- ①Van Makara 16 歳 2 人
②クメール語と英語
③中学校の先生
④2 キロ 16 キロ先の学校に通う予定だった
⑤弟が小学校 6 年生
中学校はラッシュ寄贈の学校に来る
⑥両親は学歴がなく苦勞しているので
学費を出してくれている



- ①Soun Malss 5 人兄弟の末っ子
②国語 道徳
③先生
④2 キロぐらい
16 キロ先の学校の近くに家を借りなくては
ならなかったのが近くにできて嬉しい
⑤他の兄弟は経済的に厳しかったので
全員学校をやめた
⑥今は以前より良くなったので、
両親が学費を出してくれている



今後予定しているプロジェクト

ASAP は今秋までに以下の様な計画を進めています。予算的にはぎりぎりですが、ASAP の目標「実のある支援」を実現するために不可欠と考えての取り組みです。

皆様ぜひ力を貸して下さい！！

※金額は問いませんので、同封の振込用紙でお力添え頂けたら幸いです

プロジェクト 1 ホンターン小学校校舎寄贈

現在 146 名が 3 教室で勉強しており（内 1 教室は職員室と図書室として使用の為、実質 2 教室）2 部制にしても教室がたりず困っている状況です。前回 2 回の訪問で視察を行って参りましたが、二つあるトイレは壊れドアもボロボロ、校庭にはごみが沢山落ちており、教室もきれいなとは言えない状況でした。**ASAP が継続して支援する意義はあると判断し、理事会にて 4 教室の校舎寄贈を決定しました。**今年の 8 月末が完成予定です。



ポスターも剥がれ落ちたままの学校

プロジェクト 2 高校のヴィラ校長先生を日本へ研修に招く

P2 に書いた様に、寄贈したグラウンドを単なるサッカー場としてではなく、いろいろなスポーツをする場として学校に有効に使ってもらう為には、先生がイメージさえできないことをどう実践してもらうかという大きな問題があります。3 年前にヌウ先生とサレイ先生を日本に呼び、研修をしてもらいましたが、帰国後の彼女達の働きには大きな変化がありました。（それが評価されて地区一番の学校になったわけです）大グラウンドが出来た今こそ、まず地区の教育に影響のあるヴィラ先生を日本に呼び、**小学校、中学校、高校がグラウンドをどう使っているかを実際に見てもらうことが、グラウンドを寄贈した意義を最大限に生かしてもらう為の近道と考えました。**

このプロジェクトには飛行機代金、滞在費、通訳さんの費用を始め、多くのサポートが必要になる大プロジェクトとなります。**実のある支援を目指す ASAP だからこそ、この支援が今必要な支援であると確信し、今年の秋実施を目指します。**

プロジェクト 3 地域の先生達を集めての運動講習会を開く

校長先生を呼ぶだけでなく、カンボジアの学校の先生達を集めて運動を紹介する「運動講習会」を開く計画を進めています。先生達がスポーツの「目的」と「楽しさ」を知ることで、各学校での体育教育が前進していくと思います。今年の 8 月に実行を目指します。

Mother to Mother 活動報告

1月から3月は入園入学の準備シーズンです。また、幼稚園では作品展等のシーズンでもあり、Mother to Motherの製品を抱えて走り回りました。

その合間をぬってカンボジアにも行き、お母さん達に仕事の代金を渡してきました。現在23人のお母さん達が参加し、総額2800ドルほどを渡すことが出来ました。



お母さん達は字が書けないので
拇印がサイン替わりです

『カンボジア国内でお土産を販売しようプロジェクト』進行状況

昨年秋から挑戦中の「シムリアップで販売するお土産品を作って売る」計画は、本格的に進んでいます。

「象の写真クリップ」は「**在庫が完売したのもっとお願いします**」という注文が入るなど、嬉しい手ごたえが。「真似」が横行するカンボジア。製品がまねされる前にもっと販売先を増やすことは必須事項。そう考えると今が勝負時。4月末にカンボジアに行き、販売協力先を探す営業活動に力を入れてきます！



Tシャツやワンピースも作っています



ASAPコーナーがあるお店も！

ご協力有難うございます

今年もたくさんの幼稚園、保育園、小学校、高校に Mother to Mother の製品の販売ご協力を頂きました。

ASAPからの連絡を入れる前に「今年もよろしくおねがいします」とご連絡を頂いた園もございました。園の特注品として注文頂ける園もあれば、卒業記念品、お誕生日のプレゼント、お遊戯会のご褒美に、と毎年の行事に繰り込んで下さっている園もがございます。安定した生産（注文）が見込めるのは、大変有難く、安心してカンボジアのお母さん達に仕事を提供できます。今年はお米が不作という事で、今まで以上にこの収入が意味を成してくると思います。今後とも引き続きよろしくお願い致します。

Mother to Mother 活動ご協力先 (50 音順)

秋川あすなろ保育園	至誠学園（立川）	多摩川幼稚園（あきる野）	松原保育園（昭島）
昭島ゆりかご第二保育園	至誠第二保育園（日野）	多摩川ベビーハウス	万願寺保育園（日野）
アングル（荻窪）	しせい太陽の子保育園（日野）	玉水保育園（羽村）	みどりの園保育園（あきる野）
五日市わかば保育園	白百合幼稚園（八王子）	調布白菊幼稚園	みその幼稚園（板橋）
ウィズチャイルド（多摩）	杉ノ子第三保育園（福生）	つみき保育園（武蔵村山）	むぎの穂第二保育園（大阪）
ウッディキッズ保育園（あきる野）	杉の子幼稚園（足立区）	西秋留保育園（あきる野）	めぐみ幼稚園（立川）
啓明学園初等学校（昭島）	すみれ保育園（福生）	ハーモニー保育園（府中）	明照幼稚園（葉山）
啓明学園高等学校（昭島）	諏訪の森保育園（立川）	光の子保育園（京都）	大和富士幼稚園（大和）
こどもリビング（多摩）	聖愛幼稚園（福生）	日野しらゆり幼稚園	ゆりかご保育園（昭島）
さかえ幼稚園（羽村）	立川かしの木幼稚園	日野・多摩平幼稚園	わかたけ元町保育園（所沢）
至誠あずま保育園（日野）	玉川学園幼稚部（町田）	日の出幼稚園（あきる野）	
至誠いしだ保育園（日野）	玉川学園小学部	福生本町保育園	

29年度のMother to Mother活動は、『ゆうちょ財団』より80万円の助成を受けております。また、ここで、30年度においても848,000円の助成金が決定致しました。

この様な助成金は、沢山の応募の中から選出されて決定されます。

日頃の皆様の活動へのご協力を評価頂き、このような助成金決定に繋がっております事を皆様と一緒に喜びたいと思います。

カンボジアと日本のお母さん達の助け合い活動、今後共よろしくお願い致します

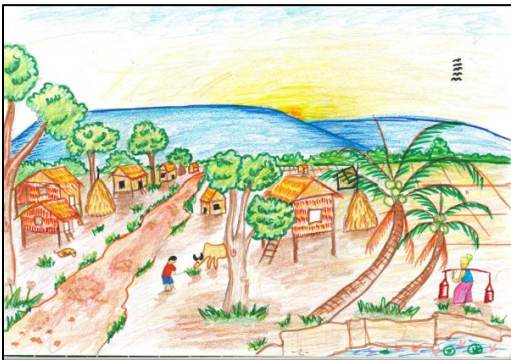
Mother to Mother が力を発揮するかも…

村に電気が供給されるようになると、電気代をどうするか…という問題が生まれます。ASAPの支援校では、Mother to Motherの品がシェムリアップで沢山販売できるようになったら、その利益をそういった学校経費にも当てられるのでは、と考えています。それ為にも街でのお土産販売が軌道に乗る様がんばらないと！！

コールタメイ村物語誕生?!

「ドラゴンフルーツを植えて収入に繋げよう」と言い出した理事長に「そんなことができるはずがない」と誰もが反対したこの計画が、予想に反し順調な成果を上げています。理事長は得意満面の笑顔です。まだ販売して利益を得るところまでは行っておりませんが、今年も60キロの収穫があり、子ども達が学校で食べて、苗を家に持ち帰って栽培を始めているそうです。先生と子ども達が「コールタメイ小学校物語」を作ってプレゼントしてくれました。クメール語を訳してもらいましたので、皆様にもお届けします。

※クメール語から日本語への翻訳は、現地ご協力者ヘインチャンポッパーさんが請け負っていただきました



東南アジアに位置しているカンボジア王国のシェムリアップ州ポパール郡にあるクーレン山の南の所に、コールタメイ村というボスブルー村落が存在していました。とても貧しい地域でありました。

長年の国内戦争に苦しんでいたため、この地域は最後の戦場で終戦し、この地域に住んでいる村人は無知で勉強の大切さが理解できず、学校も村から遠い為、親達は子ども達を学校へ行かせませんでした。（学校からの距離は5キロ）



学校に通えた子ども達も2、3ヶ月で辞めてしまっていました。それは、生活が貧困の上に学校が遠くて、通学路も凸凹で、通う手段もなかったからです。



2003年、中退する子ども達が多くなったため、学校の先生であるピラ先生がボランティアでコールタメイ村にテーブルと黒板を運んできて、木陰を見つけてテーブルと黒板を設置し、1年生と2年生を教えることにしました。少し大きくなった3年生は、遠くても通えるトロピアンプレイ小学校に通うことになりました。ピラ先生はコールタメイ村（ボスブルー村落）の子ども達が勉強出来る様に、自分の時間やお金をを割いて尽くしました。また、教育の大切さや衛生的な環境、そして村人の生活向上のために家で野菜を育てたり家畜を飼育したりと村人に指導しました。



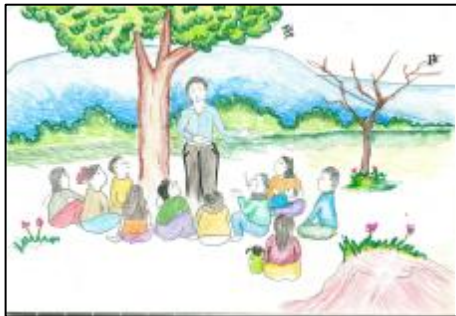
学校がなかったため、木の下で教室が行われていました。場所は度々変わりました。子ども達は制服や教材がなく、子ども達の健康状態も悪くて栄養不足でした。その上雨や猛暑な日々が続くと授業が続けられませんでした。しかし、それらの妨害は私達の勉強に対する熱意を拒めませんでした。



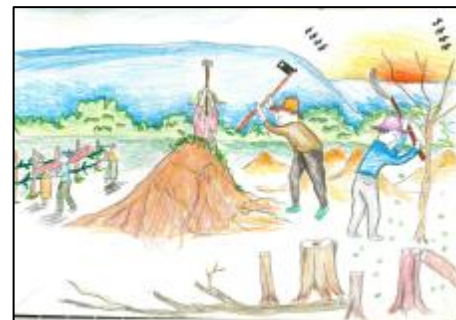
数年後教室は子どもの希望により、民家の床下に場所を移しました。村人と子ども達は木材でもいいから本物の学校校舎を欲しがっていました。



2011年に私達の村にある出来事がありました。フン・シンホンさんのPDOという団体の人が、近くに大型井戸を掘る仕事の際に、村の子どもたちが村人の家の下で勉強しているのを見かけて関心を持ち、ASAPという団体を村につれてきたのです。ASAP団体は学校の様子を見て子ども達の勉強や生徒数を聞いていました。その時、現地協力者であるフン・シンホンさんも我らの地域に学校が出来るよう精一杯協力すると心から約束をしてくれました。



そして間もなくフン・シンホンさんから、コールタメイ村ボスブルー村落に（ASAPが）学校を寄贈してくれるという素晴らしいニュースが届きました。村人は大喜びでした。村長や村人が早速集まり、学校の場所と校舎建設位置を決めました。



村の人が力を合わせて60mX80mの面積をたった一週間で綺麗に開拓し、学校の土地を確保することができました。



そして2012年3月の半ば頃、ASAP 団体からの4教室校舎の学校建設支援が決まり、フン・シンホンさんのPDO 現地団体によって建設着工が開始しました。コールタメイー村は荒野であるため建設は5ヶ月も掛かりました。また、この学校に教えてくる先生が遠い場所からやってくるため、ASAP 理事長である長谷川先生が自分のお金を出し、『先生の家』も作ってくれました。そして、いよいよ8月に ASAP 団体とシアン・ブンレイアン内務省長官の参列の元、学校の校舎と共に『大型井戸』と『先生の家』の贈呈式が行われました。



贈呈式の後、長谷川安年理事長は年2回学校を訪問し、子ども達の健康のため何か出来ないかと先生たちと相談し、その結果ドラゴンフルーツを植えることになりました。

その時、子ども達と村人はドラゴンフルーツを見た事がなかったため、どんな木なのか、その実が本当に食べられるのかと不思議に思っていました。こうして先生たちの管理の下で長谷川理事長の予算で50個のドラゴンフルーツの育つプロジェクトが始まりました。



そんなに時間が経たないうちにドラゴンフルーツの数を100個まで増やすことができました。増やせたのも ASAP の長谷川理事長のおかげでした。(※①) ドラゴンフルーツの木のお世話は、一個に二人の学生に分担して任せられました。

※①苗が根付き育っているのをみた理事長がさらに50本の苗を購入したため



その一年後、ドラゴンフルーツの花が咲き始め、初めて実になりました。子ども達と村人は初めてドラゴンフルーツの果物を食べて、とても美味しかったと思いました。(※②)

それからは、力を2倍入れてドラゴンフルーツのお世話を一生懸命しました。

※②ASAP は安いけれど美味しくない「白いドラゴンフルーツ」ではなく、高いけれども甘くて美味しい「赤いドラゴンフルーツ」の苗を購入していました。



育ててから3年目、学校ではドラゴンフルーツの苗を育てて子ども達に配り、家でも育てるようになりました。子ども達は全員大変喜んで一生懸命育てて、3年後この村をドラゴンフルーツの村にしたいと約束してくれました。



そして3年も経たないうちに村人の各家にはドラゴンフルーツが広がっています。村人は全員一生懸命ドラゴンフルーツを育て、今ではたくさん花が咲いて実になっています。

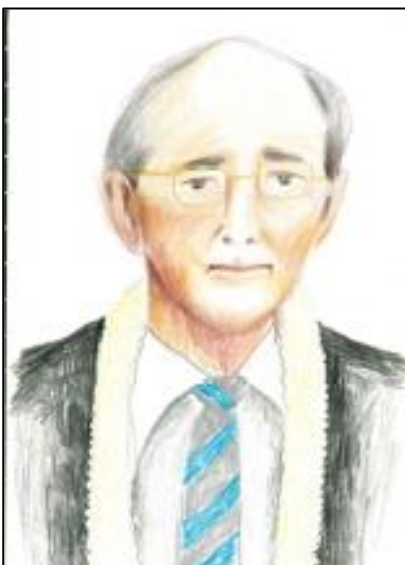


ある日、ASAP 団体の皆さんと長谷川理事長ご夫婦が例年のように学校訪問をしてくださいました。先生たちは嬉しくて嬉しくて丁度熟したドラゴンフルーツを採って日本人の皆さんに食べさせました。「とても美味しいよ」と言ってくださった長谷川理事長の嬉しそうな笑顔を見て、先生たちは胸が一杯で感動しました。「美味しい」と聞いて本当に嬉しかった先生達でした。



そしてまたドラゴンフルーツの美が完熟する季節がやってくると子ども達はまたみんなで集まって笑顔でドラゴンフルーツの果物を食べています。先生の元で一緒にお世話したドラゴンフルーツはとても美味しくてたまりません。

そして、村人と学生達は長谷川理事長に新しい「あだ名」を付けて、「**ドラゴンフルーツのお爺さん**」と呼ぶようになりました。また、「ドラゴンフルーツのお爺さん」に120歳までお末長くご健康で生きられるよう皆で願っています。



こちらの絵は ASAP 団体の長谷川理事長のお顔です。日本人支援者でいつも多摩川コールドタメイ小学校やトロピアンプレイ中高校、そして他の学校を応援して支援してくださっています。長谷川先生は ASAP 団体と共にたくさんの学校を建てて下さり、トイレ支援、井戸支援、そして乏しい先生たちに支援金など、そして最近ではトロピアンプレイ中高校にグラウンド建設も支援していただいています。その上、村の貧しいお母さんたちに仕事も与えてくださっています。私達はコールドタメイ村やトロピアンプレイ地域の人間として、長谷川先生と ASAP 団体が素晴らしい学校を作って下さったことに心から感謝してお礼を申し上げます。

私たち村人と学生たちは ASAP の素晴らしい活躍の継続を祈り、長谷川理事長ご夫婦のご健康を心よりいつまでも深くお祈りします。

支援校から届いた絵物語。嬉しい宝物となりそうです。

電気がとうとう来るぞ！登録開始

もうすぐもうすぐといいながら、なかなか来なかった「電気」ですが、ようやく電気利用希望者の登録が始まりました。さあ、本当に電気が村に入ってきます。夜も明るくなり生活が楽になるでしょう！！

しかしその反面、電気が買える人、電気製品が買える人、といった貧富の差が今よりも明確に大きくなることは確かでしょう。そう考えると手放しでは喜べない現実があります。

皆が幸せになる経済発展とはいったいどんなものなのかと考えさせられます。



作業所の前にも電線が！

編集後記

最近、トロク、タットム、コールタメイ小学校等を訪問すると、これらの学校が「支援先」というよりも「教育環境を整える為に力を合わせている仲間」という感覚が湧いてきます。資金面を支えて下さっている皆様、ボランティア、製品購入などで支えて下さっている皆様、皆様の思いは確実に現地の先生達お母さん達に伝わっています。それがこの湧き出る「一体感」なのでしょう。ASAPは幸せ者です。これからがんばります。

ASAPの活動は皆様からのご支援で成り立っています 会員や支援者となって活動を支えて頂けませんか？

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

- * 正会員… 年 20,000 円
- * 賛助会員… 毎月 1,000 円 (年額 12,000 円)
- * その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております

■郵便振替口座 00130-2-594647
『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033
普通口座 1292601
口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

ASAP カンボジア通信

ASAP 会報 Vol.21 2018.3

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス asap@tamagawa-kids.jp

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年